

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人 大和福寿会		
事業所名	グループホーム ももせやすらぎの里	ユニット名	壱番地の1
所在地	塩竈市宇伊保石30-1		
自己評価作成日	平成25年1月15日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったりした自由な空間・ふれあいを大切に」の理念のもと、四季折々を肌で感じられるよう心がけております。 町内会に加入し地域の一員として馴染みの関係を保ちながら暮らしており、理解者や応援者も増えてきています。 法人には多様な高齢者福祉サービス事業者があり継続的な支援が可能で、安心・安全・快適なサービスの提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームのトイレ、お風呂、ホール、廊下を入居者と一緒に掃除し、整理が行き届き清潔に保たれている。入居者参加の「運針クラブ」等五つのクラブが在り、縫い物や歌を歌ったり、スイーツを作ったり、日々楽しんでいる。職員も、「地域活動委員会」等五委員会を組織し、入居者により良いサービスを提供するために工夫改善に努め取り組んでいる。地域との交流も多く、防災訓練、地域清掃、七夕飾り、生き生き体操等四季折々参加し交流している、港祭りでは、入居者と一緒に踊りケーブルテレビに放映され職員と一緒に笑って楽しんだ。天気の良い日には散歩、買い物を兼ねてドライブに出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ももせやすらぎの里 )「ユニット名 壹番地の1」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったりとした自由な生活、ふれあいを大切に」のホーム理念を掲げ、ケアを実践している。	ホームの理念と、ユニット毎に職員からアンケートを取り作成した理念がある。毎月ユニットごと皆で振り返り確認している。理念の実践に努めているが、ケアの振り返りとなるよう具体的行動指針が望まれる。	ユニットの理念をもう一步踏み込んで入居者と接する場合、日々のケアに繋がる具体的行動指針を示し、ケアの目標にされることをお願いしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームや町内会の行事への参加で相互に交流し、地域の一員として生活している。	町内会に入会しており、町内の夏祭り、地震津波訓練、ダンベル体操参加等、活発な相互交流を楽しんでいる。敬老会等の行事には地域に案内状を配り、地域ボランティアの歌や踊りの参加もあり楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事に地域の方々の積極的な参加を働きかけ、認知症の方の支援について考える場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを設け、地域・行政・家族・利用者等の方々から意見を頂きサービス向上に活かしている。	年6回開催し、市の職員が毎回参加している。テーマを決め感染症、避難訓練、認知症などの勉強会を実施している。認知症の勉強会では職員の寸劇が行われ、テーマごとに意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から情報の提供を受けたり、必要時には報告や相談をしている。	市に、事故事例の報告、独居の住所変更、生活保護の方からの入所相談等で出向いている。毎月、市主催の地域ケア会議、認知症の勉強会に参加するなど市との協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学び、理解し取り組んでいる。拘束に値しないケアについて話し合っている。	身体拘束の外部勉強会に参加し研修後全員に資料を回覧し共有を図っている。帰宅願望のある入には、徘徊時、職員が緊急連絡先登録済の外出用携帯を持つて見守り、地域の方には行事や運営推進会議時、声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、理解し努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学び、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明を行っている。不安や疑問には都度対応し理解いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な面談、目安箱や苦情相談窓口を設置し対応し、運営に反映させている。	家族より職員の口調に関する指摘があり、全職員に回覧し再発防止を徹底した。各ケア担当者より、入居者の写真、行事予定、近況報告「かけはし」の送付は家族から感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会議・棟会議を開催し、意見や要望を運営に反映させている。申し送りノートの活用・職員の意見交換が活発に行えるよう努めている。	ドライヤーや加湿器の購入、性格や相性を把握し食事の席の配置換えなど職員の意見が反映された。職員互助会による海外旅行の実施、資格試験受験の配慮など、職員の働く意欲にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	いつでも就業規則が閲覧できる状態にしている。職員からの意見・要望に耳を傾け、意欲を持って働けるよう環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修への参加、勉強会の開催により意識・意欲・知識が向上できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケア会議や研修等に参加し、他事業所と交流している。情報を交換し、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や利用者との面談等でニーズを把握し、ケアプランを作成している。利用者の心身状況・家族の状況に応じたサービスが提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時より家族・関係者の意見や要望を傾聴し、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関との連携を取りながら今必要なサービスに繋がられるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人として尊敬し、出来る事・出来ない事を把握し、家事や趣味活動に職員と共に楽しく参加できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談・面会時等に家族と情報を交換し、時には協力を仰ぎながら利用者を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・手紙などで、大切な関係が継続出来るよう努めている。	家族、昔の同僚が訪れている。馴染みの美容院に薬持参で食事をして来る方、昔利用してた船着き場見学など職員の送迎で支援している。仲よし同士一緒に食事の後方付けをしたり、ソファで談話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全員で利用者同士の関係を理解し、円滑なコミュニケーションが出来るよう配慮している。支え合う・関わりあう空間が提供できるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて相談・支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意見・目線・しぐさ・表情・感情の変化に気を配り、想いが把握出来るよう努めている。	一人で買い物をしたいと言う方は時間を決めお金を持参しスーパーで買い物をしている。会話が困難で騒いでいる人を静かにさせるのではなく、別の方向に気を向けさせ、余計なストレスを与えない様気を付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、面会者等から情報を得、相談し、プラン作成や環境づくりに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の棟会議において、生活や心身の状況を話し合い、本人のペースを大切に支援できるように職員で協力し実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題とケアの在り方について適時に評価し、面会や面談時に家族から意見を伺っている。利用者の意見や気持ちに耳を傾けプラン作成に活かしている。	アセスメントを参考に、本人、家族から聞き担当者会議にかけケアプランを作成している。足が浮腫んでいる方の足浴実施、外出希望の方にはストレスが溜まらないようドライブに行くとか、ケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時の気づきや意見・日報・観察記録・支援記録等を職員間で共有し、棟会議で検討を重ね介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに対応したマッサージ・訪問歯科・外出支援・町内行事参加などのサービスが支援出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や店舗等、地域との交流を深め、1人1人が安全で豊かに楽しく生活出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療を持ち、訪問診療も行っている。本人、家族の希望を重視した医療機関で受診出来るよう支援している。心身の状態に応じた医療が受診出来るよう支援している。	定期通院の対応は家族がしている。状況により職員が付き添い、普段の状況を口頭で伝え診療状況提供書を頂いている。毎週、医師の回診と歯科医の希望治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の心身の状況を随時看護師へ報告し、必要時適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに利用者の心身の状態情報を提供し、入院中も病院と連携を取り、退院時に利用者と家族が困らないような支援を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針について説明している。	重度化及び終末期への対応指針は重要事項説明書に組み込まれ、入居時説明をし、本人、家族の同意を得ている。事業所としては力量に見合った支援で誠意を持って対応するとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命の講習会を受講し、防災訓練を実施している。急変時・緊急時・災害時の連絡網を作成し、準備すると共に、勉強会などで再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が安全に避難出来るよう訓練をしている。災害発生に備え備品をすぐ使用出来る場所に配置している。	避難訓練は年二回夜間想定も実施し、ホームの自衛消防隊、地域の婦人消防部が参加した。避難経路の確保、消防設備の配備状況を理解する事等のアドバイスを受け、震災セット等の配置図を書き掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報漏洩・プライバシー保護について学び、利用者の誇りとプライバシーの侵害にならないよう常に確認しながら全員で取り組んでいる。	その人に合った呼びかけをしている。入居者の呼びかけも「ちゃん」と呼ぶことにプライバシーの侵害に成らないか職員で話し合いをしている。外出時は本人の希望で服を選んだりお洒落に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話を多く持ち、表情・仕草・目線などから想いをくみ取る努力をしている。常に現行サービスを評価し、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、意見や表情・仕草・目線などから想いをくみ取れるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	棟理念として掲げ、本人らしく、身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるよう支援し、継続出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みに配慮し、美味しく楽しく食事が出来るよう検討している。利用者の意見をくみ取りランチ会のメニューに反映させている。	水曜日の「ランチ会」には入居者の希望を聞き、おいしく食べてもらう工夫をしている。刺身、おはぎ等リクエストに応じている。誕生日は希望で外食や買い物したり、職員と一緒にケーキを作り食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握している。また定期的に体重を測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔が保持出来るよう、利用者に合わせてケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、1人1人がトイレで安心して排泄出来るよう支援している。パット等の使用は最小限とし、自立した排泄が出来るよう支援している。	日中は一人がオムツ使用で、他の方はトイレで排泄をしている。夜間は安眠を考え個別に対応している。毎日、体操したり、ヨーグルトを食べて自然排便が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し、運動や食物・薬など本人や医師・看護師と検討し自然排便につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状況、今迄の生活習慣を考慮し、利用者が安心して入浴出来るよう検討を重ねている。	朝の入浴、夕食後の入浴、曜日、時間帯は入居者に応じている。週2～3日の入浴が平均である。拒む方は、時間を置いたり、職員を変えたり誘い方や気分を盛り上げるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状況を把握し、安心出来る環境づくりに努めている。清潔な環境を整え、眠れない利用者については会話の時間を設け、安心してもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬について個人台帳に全て記載している。職員で情報を共有し、いつでも速やかに確認出来るよう努めている。心身の状況について変化があれば支援記録へ記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今迄の楽しみが継続出来るよう、新しい楽しみが見つけれられるよう、棟会議などで検討している。それぞれに合った役割を持ち生きがいを持って生活出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の心身の状況を把握し、想いに添った外出が出来るよう支援している。家族等の協力で、充実した外出支援が出来るよう努めている。	天気の良い日は、車椅子の方も一緒にホームの周辺を散歩している。四季折々塩釜神社の花見、多賀城の菖蒲見物、利府の梨狩り等に出掛け季節感を味わっている。帰りに買い物や外食を楽しんでくる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況に応じて金品の所持や使用が出来るよう本人や家族と検討しながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況に応じて、電話や手紙のやり取りを通じ大切な人と安心して関係が保てるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせた飾りなどを利用者と共に作成し、季節感のある温かい空間を作っている。利用者の心身の状況に気を配り不快なく安心して清潔に過ごせるよう配慮している。	玄関を入り、オープンキッチン、リビング、小上がりの和室に炬燵を置いてある。リビングに入居者と一緒に作ったお雛様、鬼の面の塗り絵が飾られ、季節ごと変えている。換気、温湿度に配慮し床暖も取り入れ、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のプライバシー・心身の状況に配慮し、共同空間・個室にて自由に穏やかに過ごせるよう検討を重ね支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の今迄の生活や要望に配慮し、利用者・家族等と相談し、安らげる居心地の良い空間が作れるよう検討を重ね支援している。	居間は整理され清潔で明るい、娘さんが作ったアートフラワー、息子夫婦からのこけしが置かれ、壁には孫の結婚式の写真、同じホームに入所してる奥さん自筆の米寿祝いのが飾られ居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のわかる事・出来る事・やりたい事・嫌いな事を把握し、安全に自立した生活が継続出来るよう努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人 大和福寿会		
事業所名	グループホーム ももせやすらぎの里	ユニット名	壱番地の2
所在地	塩竈市宇伊保石30-1		
自己評価作成日	平成 25 年	1 月	15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったりした自由な空間・ふれあいをたいせつに」の理念のもと、四季折々を肌で感じられるよう心がけております。町内会に加入し、地域の一人として馴染みの関係を保ちながら暮らしており、理解者や協力者も増えてきています。法人には多様な高齢者福祉サービスがあり継続的な支援が可能で、安心・安全・快適なサービスの提供に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームのトイレ、お風呂、ホール、廊下を入居者と一緒に掃除し、整理が行き届き清潔に保たれている。入居者参加の「運針クラブ」等五つのクラブが在り、縫い物や歌を歌ったり、スイーツを作ったり、日々楽しんでる。職員も、「地域活動委員会」等五委員会を組織し、入居者により良いサービスを提供するために工夫改善に努め取り組んでいる。地域との交流も多く、防災訓練、地域清掃、七夕飾り、生き生き体操等四季折々参加し交流している、港祭りでは、入居者も一緒に踊りケーブルテレビに放映され職員と一緒に笑って笑った。天気の良い日には散歩、買い物を兼ねてドライブに出かけている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成	年	月 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ももせやすらぎの里 )「ユニット名 壱番地の2」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を元に、棟毎に職員で理念を考え構築している。棟内に掲示し共有しているが、実践に繋がっているとは言い難い。	ホームの理念と、ユニット毎に職員からアンケートを取り作成した理念がある。毎月ユニットごと皆で振り返り確認している。理念の実践に努めているが、ケアの振り返りとなるよう具体的行動指針が望まれる。	ユニットの理念をもう一步踏み込んで入居者と接する場合、日々のケアに繋がる具体的行動指針を示し、ケアの目標にされることをお願いしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	相互の行事に参加し合い、交流を行っている。	町内会に入会しており、町内の夏祭り、地震津波訓練、ダンベル体操参加等、活発な相互交流を楽しんでいる。敬老会等の行事には地域に案内状を配り、地域ボランティアの歌や踊りの参加もあり楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に認知症について理解を得る機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施。参加者から出た意見を受け止め、サービスの向上に努めている。	年6回開催し、市の職員が毎回参加している。テーマを決め感染症、避難訓練、認知症などの勉強会を実施している。認知症の勉強会では職員の寸劇が行われ、テーマごとに意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者から情報の提供を受けたり、必要時には報告や相談をしている。	市に、事故事例の報告、独居の住所変更、生活保護の方からの入所相談等で出向いている。毎月、市主催の地域ケア会議、認知症の勉強会に参加するなど市との協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、毎月会議を行い、身体拘束が行われていないか確認している。また、勉強会やマニュアルを通して共有している。	身体拘束の外部勉強会に参加し研修後全員に資料を回覧し共有を図っている。帰宅願望のある入には、徘徊時、職員が緊急連絡先登録済の外出用携帯を持つて見守り、地域の方には行事や運営推進会議時、声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、毎月会議を行い、虐待が行われていないか確認している。また、勉強会やマニュアルを通し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学び理解している。成年後見人とは協力合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、入所後も疑問点はいつでも聞いてもらえるよう声をかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族と面談を行い、意見を聞く場を設けている。各棟に意見箱を設置している。	家族より職員の口調に関する指摘があり、全職員に回覧し再発防止を徹底した。各ケア担当者より、入居者の写真、行事予定、近況報告「かけはし」の送付は家族から感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や会議の場で意見を聞く機会を設けている。	ドライヤーや加湿器の購入、性格や相性を把握し食事の席の配置換えなど職員の意見が反映された。職員互助会による海外旅行の実施、資格試験受験の配慮など、職員の働く意欲にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則が閲覧できる環境にあり、日頃から状況把握、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修への参加でスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議や研修へ参加しネットワークを作り、情報交換等を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で本人と面談し、関係機関から情報を提供してもらい、安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込受付の段階で話を伺い、入所後も面談する機会を持ち、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後に必要としている支援を面談の中で見極め、対応できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事に合わせて役割を持って頂き、職員と一緒にいる事で共に暮らす者としての関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月手紙で近況等を報告し、行事への参加や受診の協力などで、共に支える支援者としての関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会時にはゆっくり過ごせるように環境を整えている。また隣接施設に入所している家族へ面会に行けるよう支援している。	家族、昔の同僚が訪れている。馴染みの美容院に薬持参で食事をして来る方、昔利用してた船着き場見学など職員の送迎で支援している。仲良し同士一緒に食事の後方付けをしたり、ソファで談話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合えるよう配慮し、孤立しているような時は職員が交流の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から思いや意向をくみ取れるよう努めている。困難な場合は表情や動作を観察したり、家族から意見を聞くなどしている。	一人で買い物をしたいと言う方は時間を決めお金を持参しスーパーで買い物をしている。会話が困難で騒いでいる人を静かにさせるのではなく、別の方向に気を向けさせ、余計なストレスを与えない様気を付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の段階で本人や家族と面談し、関係機関から情報を提供してもらい、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや、毎月の棟会議などで現状の把握に努め、スタッフ間で共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な棟会議で現状を把握し、担当者照会、担当者会議、家族面談等を経て介護計画を作成している。	アセスメントを参考に、本人、家族から聞き担当者会議にかけケアプランを作成している。足が浮腫んでいる方の足浴実施、外出希望の方にはストレスが溜まらないようドライブに行くとか、ケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別に支援記録等に記録し、申し送りや棟会議においてスタッフ間で情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋はショートステイとして利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し、刺激を受けて楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族からかかりつけ医の希望を聞いて適切な医療が受けられるようにしている。ホームでは嘱託医と歯科の往診支援をしている。家族が受診付き添いを行う場合は、受診に必要な伝達を手紙等で行い、医師から助言を得ている。	定期通院の対応は家族がしている。状況により職員が付き添い、普段の状況を口頭で伝え診療状況提供書を頂いている。毎週、医師の回診と歯科医の希望治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて都度、看護師に報告・相談・連絡をし連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は病院・家族と連絡を取り合い、退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書で重度化した場合における対応に係る指針を説明し同意を得ている。	重度化及び終末期への対応指針は重要事項説明書に組み込まれ、入居時説明をし、本人、家族の同意を得ている。事業所としては力量に見合った支援で誠意を持って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し普通救命講習を受けている。また、初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路を掲示し、自衛消防隊を編成している。年に1回は地域住民の協力を得て訓練を行っている。頻回に防災訓練を行うまでには至っていない。	避難訓練は年二回夜間想定も実施し、ホームの自衛消防隊、地域の婦人消防部が参加した。避難経路の確保、消防設備の配備状況を理解する事等のアドバイスを受け、震災セット等の配置図を書き掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、否定しないケアを心がけている。	その人に合った呼びかけをしている。入居者の呼びかけも「ちゃん」と呼ぶことにプライバシーの侵害に成らないか職員で話し合いをしている。外出時は本人の希望で服を選んだりお洒落に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの工夫などで思いを表わせるよう促し、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や会話の中から本人の意向をくみ取れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択を優先し、選択できない方には季節、気候に合った清潔で快適な身だしなみができる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の好みや分量を把握し、できる方には食事の準備に参加してもらっている。職員も一緒に食事をし楽しく食事ができるようにしている。	水曜日の「ランチ会」には入居者の希望を聞き、おいしく食べてもらう工夫をしている。刺身、おはぎ等リクエストに応じている。誕生日は希望で外食や買い物したり、職員と一緒にケーキを作り食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主なメニューは栄養士が献立を考えている。食事と水分摂取量を把握し、バランスがとれるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の必要性について学ぶ機会を設け、口腔ケアに取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレで排泄できるように支援している。	日中は一人がオムツ使用で、他の方はトイレで排泄をしている。夜間は安眠を考え個別に対応している。毎日、体操したり、ヨーグルトを食べて自然排便が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、水分摂取や適度な運動を心がけ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や合わせて入浴が行えるようにしているが、希望は殆ど聞かれずタイミングを見ての入浴となっている。	朝の入浴、夕食後の入浴、曜日、時間帯は入居者に応じている。週2～3日の入浴が平均である。拒む方は、時間を置いたり、職員を変えたり誘い方や気分を盛り上げるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や明るさに配慮し、各利用者の就寝時間に合わせて支援している。体調や状況に応じて休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬状況について把握し、個人名の入った服薬ポケットを利用し、飲み込み確認を行い誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や言動から好むことを探り、楽しみを持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に出た場合には一緒に散歩できるようにしている。馴染みの場所に出かける機会を設けるよう努めている。車椅子対応車での外出も可。	天気の良い日は、車椅子の方も一緒にホームの周辺を散歩している。四季折々塩釜神社の花見、多賀城の菖蒲見物、利府の梨狩り等に出掛け季節感を味わっている。帰りに買い物や外食を楽しんでくる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持することを希望している利用者がおらず、本人が直接お金を使う機会はない。 必要時は保証人の依頼を得て、通帳と印鑑で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話や手紙の支援を行っている利用者はいないが、希望があれば支援したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるレイアウトを心がけ、混乱を招くことがないような環境づくりに努めている。	玄関を入り、オープンキッチン、リビング、小上がりの和室に炬燵を置いてある。リビングに入居者と一緒に作ったお雛様、鬼の面の塗り絵が飾られ、季節ごと変えている。換気、温湿度に配慮し床暖も取り入れ、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや炬燵を設置し、ホッとできる空間がもてるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、本人の馴染みの物などを持参して、安心して過ごせる居室になるようにしている。	居間は整理され清潔で明るい、娘さんが作ったアートフラワー、息子夫婦からのこけしが置かれ、壁には孫の結婚式の写真、同じホームに入所してる奥さん自筆の米寿祝いのが飾られ居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や環境整備に努め、棟内では安全にできるだけ自立した生活ができるよう努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300286		
法人名	社会福祉法人 大和福寿会		
事業所名	グループホーム ももせやすらぎの里	ユニット名	吉番地の3
所在地	塩竈市宇伊保石30-1		
自己評価作成日	平成 25年 1月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったりした自由な空間・ふれあいを大切に」の理念のもと、四季折々を肌で感じられるよう心がけております。町内会に加入し、地域の一員として馴染みの関係を保ちながら暮らしており、理解者や協力者も増えてきています。法人には多様な高齢者福祉サービスがあり継続的な支援が可能で、安心・安全・快適なサービスの提供に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームのトイレ、お風呂、ホール、廊下を入居者と一緒に掃除し、整理が行き届き清潔に保たれている。入居者参加の「運針クラブ」等五つのクラブが在り、縫い物や歌を歌ったり、スイーツを作ったり、日々楽しんでいる。職員も、「地域活動委員会」等五委員会を組織し、入居者により良いサービスを提供するために工夫改善に努め取り組んでいる。地域との交流も多く、防災訓練、地域清掃、七夕飾り、活き活き体操等四季折々参加し交流している、港祭りでは、入居者も一緒に踊りケーブルテレビに放映され職員と一緒に笑って楽しんだ。天気の良い日には散歩、買い物を兼ねてドライブに出かけている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 年 月 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ももせやすらぎの里)「ユニット名 壱番地の3」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念と棟理念を掲示し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	ホームの理念と、ユニット毎に職員からアンケートを取り作成した理念がある。毎月ユニットごと皆で振り返り確認している。理念の実践に努めているが、ケアの振り返りとなるよう具体的行動指針が望まれる。	ユニットの理念をもう一步踏み込んで入居者と接する場合、日々のケアに繋がる具体的行動指針を示し、ケアの目標にされることをお願いしたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	千賀の台町内会に加入し、イキイキ体操や地域清掃等に参加する等して職員、入居者共に地域の一員として交流する機会を持っている。	町内会に入会しており、町内の夏祭り、地震津波訓練、ダンベル体操参加等、活発な相互交流を楽しんでいる。敬老会等の行事には地域に案内状を配り、地域ボランティアの歌や踊りの参加もあり楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事への参加で理解を得る機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催で、行政、町内会、家族、入居者が参加。意見を求め、サービスの向上に努めている。	年6回開催し、市の職員が毎回参加している。テーマを決め感染症、避難訓練、認知症などの勉強会を実施している。認知症の勉強会では職員の寸劇が行われ、テーマごとに意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じ、連絡・相談を行っている。	市に、事故事例の報告、独居の住所変更、生活保護の方からの入所相談等で出向いている。毎月、市主催の地域ケア会議、認知症の勉強会に参加するなど市との協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会の設置、勉強会等で職員全員がその理解に努め、身体拘束は行わないケアを実践している。	身体拘束の外部勉強会に参加し研修後全員に資料を回覧し共有を図っている。帰宅願望のある入には、徘徊時、職員が緊急連絡先登録済の外出用携帯を持って見守り、地域の方には行事や運営推進会議時、声掛けをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会の設置、勉強会を開き、虐待行為とは何なのかを職員全員が理解に努め、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などに参加し理解を深め施設内職員においても勉強会を実施し共有出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入所中、退所時においても十分な説明をするように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに入居者、家族の意見や要望を伺う機会を設けている。苦情対策委員会や意見箱を設置し、運営に反映させている。	家族より職員の口調に関する指摘があり、全職員に回覧し再発防止を徹底した。各ケア担当者より、入居者の写真、行事予定、近況報告「かけはし」の送付は家族から感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回程度の全体会議、棟会議を開催し職員の意見や要望を運営に反映させている。	ドライヤーや加湿器の購入、性格や相性を把握し食事の席の配置換えなど職員の意見が反映された。職員互助会による海外旅行の実施、資格試験受験の配慮など、職員の働く意欲にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則一覧を事務所にいつでも閲覧できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に参加しスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との会議やGH協への参加等、行事参加交流を深め意見交換を行いサービス向上に繋がるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談や実調時に家族、本人と話し合いを行い、不安な事、困っている事を聞き出しアセスメントを行い、プランに反映させ、実行することで本人と家族との信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的な家族面談などで不安・要望等を聞く機会を持ち、共に解決できるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談やアセスメントをし、必要と思われるサービスを検討し、適したサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し、出来る事は本人で行ってもらうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時にはゆっくり過ごせる環境を作り、必要時には共に支援する関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係を継続できるよう、安心して面会や外出ができるよう支援している。	家族、昔の同僚が訪れている。馴染みの美容院に薬持参で食事をして来る方、昔利用した船着き場見学など職員の送迎で支援している。仲良し同士一緒に食事の後方付けをしたり、ソファで談話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し、席替えや入居者同士の交流の仲介を行ったり、本人の訴えを傾聴し、不快なく過ごせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為退所になっても、面会行い本人の様子を伺い、本人の状態把握、家族との相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の希望や思いに添えるよう努めている。困難な場合は、違った方法を検討している。	一人で買い物をしたいと言う方は時間を決めお金を持参しスーパーで買い物をしている。会話が困難で騒いでいる人を静かにさせるのではなく、別の方向に気を向けさせ、余計なストレスを与えない様気を付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに使用した馴染みのある備品を部屋に配置したり、都度本人又は家族にこれまでの生活リズム、暮らし方を聞き、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、普段の日常生活からみえてくる、本人のADL、IADLの状態把握に努め、それに見合ったケアの提供を心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面談や電話で家族の要望やスタッフからの、普段の生活における課題点の助言を参考にサービス担当者会議を開催し、意見交換を行いプランに反映させている。	アセスメントを参考に、本人、家族から聞き担当者会議にかけケアプランを作成している。足が浮腫んでいる方の足浴実施、外出希望の方にはストレスが溜まらないようドライブに行くとか、ケアプランに反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫は記録にを行い共有し、介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じ、訪問歯科やマッサージなどのサービスが利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連絡は密に行い、週に1度の往診、定期的な受診を行えるよう支援している。	定期通院の対応は家族がしている。状況により職員が付き添い、普段の状況を口頭で伝え診療状況提供書を頂いている。毎週、医師の回診と歯科医の希望治療が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職を配置しており、適切な看護・受診が行えるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、病院と連携を取り早期退院ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応に係る指針について説明している。	重度化及び終末期への対応指針は重要事項説明書に組み込まれ、入居時説明をし、本人、家族の同意を得ている。事業所としては力量に見合った支援で誠意を持って対応するとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を受け、緊急時マニュアルを整備。初期対応の訓練を行い実践できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練を定期的に行い、地域と連携し訓練をしている。自衛消防隊を編成している。	避難訓練は年二回夜間想定も実施し、ホームの自衛消防隊、地域の婦人消防部が参加した。避難経路の確保、消防設備の配備状況を理解する事等のアドバイスを受け、震災セット等の配置図を書き掲示している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、声掛けの仕方においては常に気を配り、プライバシー保護についても常に注意を払い対応している。	その人に合った呼びかけをしている。入居者の呼びかけも「ちゃん」と呼ぶことにプライバシーの侵害に成らないか職員で話し合いをしている。外出時は本人の希望で服を選んだりお洒落に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思・行動を尊重し、声掛け時は常に本人の意思の確認を行い、自己決定し易いような声掛けの工夫を常に考えながら行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思・希望を尊重しながら声掛けを行い、その人らしいペースの生活が送れるように職員が協力し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の価値観・意向に合わせている。、定期的な理美容の提供、整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好きなものを伺い、定期的に行われているランチ会に反映させている。座ってできるような準備や片づけはお願いしている。	水曜日の「ランチ会」には入居者の希望を聞き、おいしく食べてもらう工夫をしている。刺身、おはぎ等リクエストに応じている。誕生日は希望で外食や買い物したり、職員と一緒にケーキを作り食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護職者と連携をとり食事量、水分量、禁止食、食形態を相談しながら提供している。又、嗜好品等を家族に聞き出し購入するなどして食欲増進に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、必要に応じて歯科医師のアドバイスを受けながら支援行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導や声掛けを行うようにし、パット・リハビリパンツは最小限の使用とし、トイレで排泄できるよう支援している。	日中は一人がオムツ使用で、他の方はトイレで排泄をしている。夜間は安眠を考え個別に対応している。毎日、体操したり、ヨーグルトを食べて自然排便が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の水分摂取量をチェックしたり、毎日の体操を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望や体調に合わせて日中や夜間の入浴等対応している。入浴拒否がある場合楽しく入浴して頂けるよう声掛けやタイミング等を工夫している。	朝の入浴、夕食後の入浴、曜日、時間帯は入居者に応じている。週2～3日の入浴が平均である。拒む方は、時間を置いたり、職員を変えたり誘い方や気分を盛り上げるなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調を把握し、それに合わせた休息がとれるよう支援している。環境を整え安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳の服薬状況に記入し全職員が理解するようにしている。服薬の変更の際はすぐに服薬状況を更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を理解し、家事や裁縫、書道や畑仕事等、個々に合った楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出が出来るよう支援しているが、希望に添えるまでは至っていない。地域の行事には積極的に参加し、地域の方々との交流を行っている。	天気の良い日は、車椅子の方も一緒にホームの周辺を散歩している。四季折々塩釜神社の花見、多賀城の菖蒲見物、利府の梨狩り等に出掛け季節感を味わっている。帰りに買い物や外食を楽しんでくる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と検討し、入居者に応じたお金の所持や使用が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、電話や手紙の支援を必要としている利用者はいないが、希望があれば支援したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々に適したインテリアを入居者と作成し飾っている。快適に生活出来るよう環境に配慮している。	玄関を入り、オープンキッチン、リビング、小上がりの和室に炬燵を置いてある。リビングに入居者と一緒につったお雛様、鬼の面の塗り絵が飾られ、季節ごと変えている。換気、温湿度に配慮し床暖も取り入れ、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア等の共用空間では、気の合う方と過ごせるように席次やテーブルの配置を考え、独りでも過ごせるようソファも置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みのインテリアを設置し安心して居心地よく生活でき、なおかつ危険がないよう配慮している。	居間は整理され清潔で明るい、娘さんが作ったアートフラワー、息子夫婦からのこけしが置かれ、壁には孫の結婚式の写真、同じホームに入所してる奥さん自筆の米寿祝いのが飾られ居心地良く過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来る事、分かる事を把握し現状が維持出来るよう努めている。つまずきそうな物や怪我に繋がりそうな物をなくし、安全に生活出来るよう努めている。		